



エスコープ大阪機関紙

C o n t e n t s

表紙

・ソーシャルファームに取り組み、農業の中に福祉を

P2

・どう減らす？ プラスチック

P3

・活動報告 2019ネグロスツアー報告会/「堺市域における使い捨てプラスチック削減に関する協定」締結式/第5回エスチャンネル「森米麦館タマヤ」訪問
・職員紹介 ・生産者紹介

P4

・エスコープ大阪第6次中期計画
・エッコロ給付状況報告
・子育てひろば案内
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

ソーシャルファームに取り組み、農業の中に福祉を

国内自給率40％以下、耕作放棄地が増えているなど、日本の食や農をめぐる問題は深刻になってきています。そんな中、農業に福祉を取り入れることで解決にアプローチしようと取り組んでいる社会福祉法人があります。それが、「社会福祉法人 生活クラブ風の村」（千葉県佐倉市）です。生活クラブ風の村は「生活クラブ生活協同組合（千葉）」（以下、生活クラブ千葉）から生まれた社会福祉法人で、「誰もがありのままにその人らしく地域でくらすことができるように」をモットーに、赤ちゃんから障がい者、お年寄りまでが利用できる、幅広い事業に取り組み、人生のすべてのステージで必要とされる支援や応援をおこなっています。今回は、生活クラブ風の村で「生活クラブ・虹と風のファーム」によるユニバーサル農業に取り組んでいる田辺さんにお話を伺いました。

（聞き手：福祉活動担当常務理事 吉田 正美）



社会福祉法人 生活クラブ風の村
常勤顧問

田辺 樹実さん

私たちの食を確保するた
めに農地を守っていく

吉田 「虹と風のファーム」はどのような経緯で始まったのですか。

田辺 後継者がいないなどで耕作放棄地が増えていることは広く知られていますが、生活クラブ千葉と40年ほど提携関係がある生産者でも「後継者がいないので農業をやめる」という話を聞き、他人事ではないと感じました。私たちの食を確保するには、何とかして農地を守っていかないとけません。生活クラブ風の村では、障がい者だけでなく、生活困窮状態の人など社会に適合が難しい人が大勢いる現状を踏まえ、以前よりユニバーサル就労に取り組んでいましたが、2011年より「ユニバーサル農業」をすすめる構想の検討が始まっています。そこで、前出の生産者を含む4名の方から2ヘクタールを借り受け、2016年に「風の村ファーム」として農園を始めました。そして、今年の春より、生活クラブ千葉と生活

クラブ風の村が連携し、「生活クラブ・虹と風のファーム」がスタートしました。

※ユニバーサル就労＝障害者手帳の有無に関わらず、障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、さまざまな理由で、現在の雇用形態にはなじみづらい人に、短時間や週1回からなど、個性や事情に合わせた多様なはたらき方をつくり出し、誰にとつてもはたらきやすく、はたらきがいのある職場環境をめざす取り組み。

「食」の問題を多面的に
解決していく

吉田 一般の障がい者施設でも、障がい者が畑作業をして、社会性を身につけたり、収入を得たりする取り組みがおこなわれていますが、生活クラブ風の村が目指すソーシャルファームとはどのような違いがありますか。

田辺 一般的な社会福祉法人では、農業は人間性の回復のための手段とされることが多いですが、それだけではなく、「農業の中に福祉を」という切り口ですすめています。つまり、事業として採算が取れるようにし、食料生産者としてしっかりと事業を成立させることをめざしています。それが日本の食をめぐる問題の解決にもつながり、地域社会に認知されるようにもなります。消費者が農業に関わって成立させていく「食」をめざし、生産現場を消費者の近くに戻して、離れてし

まった「食」と「農」を近づけていきたいと思っています。

また、農業を成り立たせるにはたくさんの人手が必要で、収穫したものを出荷、加工、販売する人とながる必要があります。地元の人とつながることにより、地域づくりの視点でも考えて取り組むことにもなり、「食」の問題を多面的に解決していこうと考えています。

現在、虹と風のファームでは職員3名とユニバーサル就労のスタッフ2名、生活介護の利用者40名ほどと、ファームメンバーと呼ばれる組合員の登録ボランティア10名が加わり作業をおこなっています。スタッフのひとは20年ほど引きこもり状態でしたが、今では居場所を見つけ、地域の一員として役割を持ち、一緒に働いています。

収穫した野菜は、生活クラブ千葉のデポ（店舗）や地元の直売所で販売したり、生活クラブ風の村の施設の食事に使用しています。また、収穫した大根を漬物に加工したり、千葉特産の落花生の油を搾ってオイルサーディンを加工したりしています。今年は天候に恵まれず、生協の組合員活動で収穫を予定していた加工用トマトはまっ黒になってしまい、じゃがいもも高温障害に遭い、失敗してしまいました。このような時、ファーム

ムに関わる組合員の人たちも一緒に農業の使用などについて考えることも大事だと考えています。

FECW自給圏づくり
の具体化をめざす

吉田 今後はどういうにすすめていくのでしょうか。

田辺 事業として成り立たせるためにも、今、作物の生育にあわせて作業と各々の事情にあわせた働き方のマッチングをすすめています。そして、ユニバーサル農業の社会化をすすめていきたいと考えています。また、太陽光発電の準備もすすめており、農作物&加工品（F）、太陽光発電（E）、ユニバーサル就労（C）、はたらく場（W）のFECW自給圏づくりの具体化をめざしていきます。

吉田 「食」と「福祉」は別物と思いがちですが、そうではなく、「食」の課題を福祉の分野から多面的に捉えて解決するという視点があれば新たなアプローチができるのだと思いました。今後の私たちの活動にもぜひ活かしていきたいと思います。



虹と風のファームの農場にて、農場長の橋口さん(左)と田辺さん。



どう減らす？プラスチック

日本では戦後の復興期以降、軽くて加工しやすく安価な素材としてプラスチックの生産が盛んになり、現在私たちの身の回りにはさまざまなプラスチック製品があふれています。便利さと引き換えに、使い捨てによるごみの増加や環境汚染など私たちはプラスチックによる新たな問題を抱えることになりました。

プラスチックの原料や製造燃料に使われる石油の消費量は世界産出量の10%近くを占め、CO₂を排出することから深刻な地球温暖化問題の原因にもなっています。

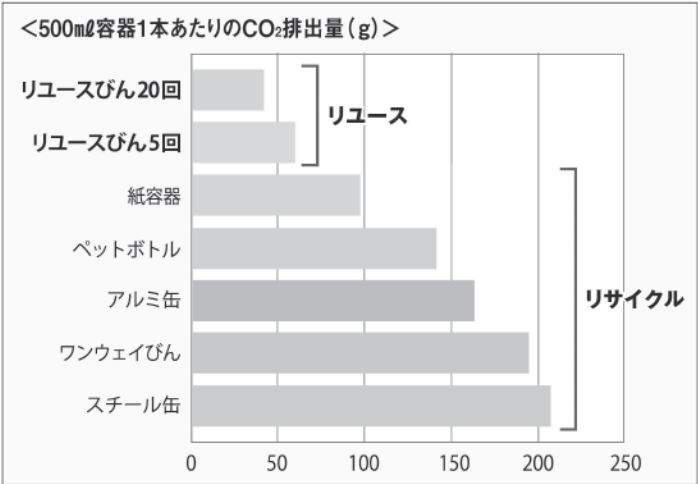
また、海洋プラスチックも新たな問題のひとつです。大量生産されたプラスチックはポイ捨てやリサイクルが追いつかずに街にあふれ、やがて海に流れ着きます。紫外線や波の力で壊れて細くなり、マイクロプラスチックとなって、魚や海鳥が食べるなど生態系への悪影響を起こしています。

行き詰まるリサイクル

プラスチックごみの大半を占めるのが容器包装です。使い終わったらポイ捨てされることも多く、大阪府の河川付近での調査によると、食品の容器包装のプラスチックごみが一番多く見られています。

日本では、ごみ問題の解決に向けて2000年に「容器包装リサイクル法」（以下、「容リ法」）が施行されました。消費者はペットボトルなどの「分別排出」、自治体は「分別収集・選別保管」、事業者は「再商品化」することが義務付けられ、リサイクルがすすみました。分別することで、それまで埋め立て処理されていた家庭ごみの量が削減できたという成果があります。しかし、自治体の収集負担が大きいうえに任意の取り組みであるため自治体によって取り組みに差があるのも実情です。

日本のペットボトルのリサイクル率は84.8%と世界的にも高いのですが、国内の年間出荷本数227億本のうち約34億本がリサイクルされず、さらにそのうちの4千万本が散乱ごみになっていると推測され、決して少なくない量となります。欧州ではリサイクルとは認められていないサーマル・リサイクル（燃料としてリサイクルする）が多いことも問題です。また、リサイクルの半量を中国に輸出していましたが、2018年から中国が廃プラス



データ：LCA手法による容器間比較報告書より リユースびんの5回、20回は再使用回数。
※LCA：ライフサイクルアセスメントの頭文字。資源の採取から製造、流通、消費、廃棄までトータルでの環境影響を評価する手法。

●生活クラブがすすめるリユースの取り組み

2018年度に『グリーンシステム』で削減できた量
ごみ：4,323トン
CO₂：2,502トン

東京ドーム約1個分のCO₂を削減

Rびんは中身が変わる

1本のRびんでさまざまな消費材にリユースされています

●ごみを減量するには発生を抑制することが重要です



リユース・リサイクルと併せてリデュースに取り組まなければ廃棄物問題は解決できない
出典：「ハイムーン工房」のホームページより

生活クラブがすすめるリユース

生活クラブでは消費材の容器に、品質保持において一番優れているガラスびんを推奨し、1994年からはびんを回収して繰り返し使うことでごみとCO₂排出量を減らす「グリーンシステム」に取り組んでいます（左図参照）。びんの規格を統一した「Rびん」を開発して、中身が違っても回収・洗浄・選別を効率的におこなない、びんの回転率を上げています。環境にやさしいRびんの消費材を利用して回収に出すことで資源の有効活用ができ、次の世代に少しでも良い環境を引き継ぐことができます。

※3Rとは…

環境配慮に関するキーワードで、①リデュース（ごみの発生抑制）、②リユース（再利用）、③リサイクル（ごみの再生利用）の優先順位で廃棄物の削減に努めるのが良いという考え方を示している。

リデュース（発生抑制）への取り組み

グリーンシステムではRびんの他に、消費材を仕分けするのためのピッキング袋・牛乳キャップ・鶏卵パックも回収してリサイクルをすすめています。



岩井化成㈱での牛乳キャップリサイクルの見学

2017年のG7（第43回先進国首脳会議）で提案されたEU諸国の先行取り組みである「海洋プラスチック憲章」に続き、日本では2019年5月に「プラスチック資源循環戦略」が策定され、2020年7月からのレジ袋の有料化義務化が決まりました。エスコープ大阪も今年10月、自治体・消費者・事業者が協力することでプラスチックごみの早急な削減を図る「堺市域における使い捨てプラスチック削減に関する協定」を堺市と結びました。レジ袋の代わりに「マイバッグ」を持ち、ペットボトルの代わりに「マイボトル」を持つことが暮らしの中に浸透しつつあります。一人ひとりの環境に配慮した意識が、持続可能な循環型社会を形成し地球環境を守ることにつながります。

理事会
**2019
ネグロスツアー報告会**
10月18日(金)
大阪市中央公会堂・大会議室
(大阪市北区中之島)

ネグロスツアー実行委員会担当理事
日紫喜 啓子



お互いを知り、知らせる交流

「見て」「聞いて」「感じた」とを画像を使いながら発表しました。文化の違いに戸惑ったことや、自分たちが通訳を交えながらおこなったプレゼンを熱心に聞いてくれた現地の人たちのこと、子どもたち

生活クラブ関西6生協では、民衆交易先の海外の生産者と交流する産地訪問を、バナナやエビ、コーヒーなどの民衆交易をおこなう「(株)オルター・トレード・ジャパン」を通しておこなっています。今年は、関西の生活クラブ組合員3名が、6月23日(日)〜28日(金)にかけてフィリピン

「見て」「聞いて」「感じた」とを画像を使いながら発表しました。文化の違いに戸惑ったことや、自分たちが通訳を交えながらおこなったプレゼンを熱心に聞いてくれた現地の人たちのこと、子どもたちに少しでも添加物のないものを食べさせたいと「リアルフード運動」に取り組んでいる「マムズ・アクロス・フィリピン」のお母さんたちの活動、度重なる災害にも負けずに粘り強くバナナを栽培している生産者についてなどが報告されました。どの報告も実際に産地を訪問したからこそ聞くことができた内容だと思っています。報告を聞き、参加した人たちは、自らの生活を顧みて豊かさ

理事会
「堺市域における使い捨てプラスチック削減に関する協定」締結式
10月23日(水)
堺市役所(堺市堺区)

理事長 北辻 美樹



(右から)堺市消費生活協議会 山口典子会長、堺市 永藤秀樹市長

**エスコープ大阪では以前から
レジ袋削減に取り組んでいます**

2005年から06年にかけて容器包装リサイクル法を改正しレジ袋の有料化を義務付ける検討がなされましたが、コンビニエンスストア業界などの反対で見送られていました。しかし今年6月、プラスチックごみの海洋流出問題が主要テーマのひとつとなった主要20ヶ国・地域(G20)首脳会議が日本で開催されることを受け、新たなプラスチックごみ削減策の目玉として、すべての小売業者にレジ袋の有料化を義務付ける法令制定を2020年度中に目指す方針が打ち出されました。その後、2020年7月1日からすべての小売店にレジ袋有料化を義務付ける方針がまとめられました。

見交換会を計3回おこない、堺市域におけるレジ袋削減に関する協定を締結することになりました。締結式には堺市長の永藤英機氏をはじめ、「堺市消費生活協議会」と11の事業者が参加し、「レジ袋削減に向けて積極的に取り組むこと」「レジ袋以外の使い捨てプラスチックも可能な限り削減に取り組む」という内容で協定を締結しました。

現在、海外ではすでにレジ袋の利用を廃止する方向に向かっていきます。そのような世界情勢を考えると、日本はプラスチックごみ削減に関する対策では後進国と言えます。エスコープ大阪の店舗「城山台D」では、以前よりレジ袋の配布はしておらず、ほとんどのお客さん(組合員)がエコバックを持参していましたが、容器包装や配達時の内袋などまだまだ課題があります。この協定では店舗が対象ですが、エスコープ大阪全体でも生活クラブの「グリーンシステム」をはじめとしたプラスチックごみ削減に、よりいっそう取り組んでいきたいと思っています。

麦粉の扱いづらさを技術でカバーし国産小麦粉100%のパンを作っています。また、職人の力量によって出来上がりに差が出ないように、この職人技をすべてデータ化して、誰でも同じ品質のパンが作れるようにしていることを知りました。

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。

私たちの生産者

<第3回> エコーレア株式会社 取締役営業推進部長 倉橋 滋子さん



「エコーレア(株)」は、生活クラブのせつけん類などの生産者である「エスケー石鹸(株)」のグループ会社で、せつけんと同じように合成界面活性剤を使用せず、肌への負担を最小限におさえた基礎化粧品を中心に扱っています。倉橋さんがこの仕事に就かれたのは、ご自身が肌が弱くせつけんの良さを実感し、そのことを多くの人に伝えてせつけんを広めたいと思ったことがきっかけです。

自社の社員には、「組合員との交流を大切にし、自分の言葉でしっかりと話すように」と厳しく指導されているそうですが、その反面、一緒に働く社員を家族のように思い、得意の中華料理をふるまったり日頃の疲れを労っているそうです。

エコーレアでは、世の中の動きを敏感にキャッチし、新しい消費材の開発にも意欲的に取り組んでおり、今後の消費材開発にも期待したいです。

何年経っても変わらない所



長谷川 猛(45歳)

エスコープ大阪在籍年数20年7ヵ月
[共同購入フロア・堺支所]

私が生協で働き始めて早いもので20年が経ちました。髪の毛をかき上げると白髪が増えたのも当たり前ですね。私は野球が好きで、先日モドラフト会議を見ていて、選ばれる選手が長男と同じ年齢ということに気付き、改めて時が経ったことを実感しました。

私が入協したての新人の頃は、人見知りをすることとラックの運転にとっても不安を感じていたことを覚えていますが、未だに運転には不安と怖さがありますが、適度な緊張感と安全運転につながっていると思います。人見知りは仕事を続けるうちに慣れてはきましたが、新しく加入された方への最初の配達の際は何年経ってもドキドキします。

エスコープ大阪は、前身の「泉北生協」設立から来年で50年が経とうとしています。カタログの中身は時代と共に変わっていきませんが、豚肉など長く変わらない消費材もあり、安心・安全を求める考え方は変わっていません。これからも一点でも多くのお気に入り消費材を見つけてもらえるようにおすすめていきたいと思っています。



第7回
理事会報告 <11月6日>

【9月度決算報告】

- 供給高 2億1,587万円(前年同月比104.6%)
- 組合員数 19,501名(前月比 -16)
- 一人あたりの出資金 80,540円

【10月の放射能検査結果】

10月は連合消費材773検体、エスコープ大阪独自の消費材7検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①「生活クラブ関西6生協青果政策」実行方針(具体案)意見集約
- ②「泉北のまちと暮らしを考える財団(仮)」 評議員就任依頼について
- ③竜おうみ米21RY(20年度産米)の計画数(契約量)提案
- ④新規カレールウ(平牧工房)のアレルゲン除去と対策の意見提出
- ⑤「第14回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 愛知」への参加に伴う追加支出
- ⑥9月おさそい推進月間取り組みまとめ
- ⑦泉州地域の地域チャレンジ取り組み生産者と品目の決定について

【報告承認事項】

- ①定款第6条2項組合員の加入について
- ②設立50周年ロゴマーク募集
- ③「シャボン玉フォーラム in しが全国集会」開催に向けての協力依頼について
- ④せっけん運動ネットワーク総会の代議員選出および書面参加
- ⑤「総合エネルギー政策調整会議」取り組み総括(単協意見)の提出
- ⑥2019年度上期サークル活動報告および2019年度下期サークル活動計画



エコロ制度 11月度報告

加入者数 1,303名

給付状況	組合員活動を支えるためのケア	1件
	組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
	加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
	加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
	加入者本人の産前産後のケア	0件
	長期に留守をする時のケア	2件
	リフレッシュのためのケア	1件
	儀式・行事に伴うケア	1件
	高齢の加入者をサポートするケア	5件



エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
1月15日(水) 10～12時	大阪狭山市立公民館 (河内長野・大阪狭山地域)
1月21日(火) 10～12時	さつき野東集会所(南河内地域)
1月9日(木) 10～12時	泉佐野市生涯学習センター (泉州地域)
1月28日(火) 10～12時	和泉市コミュニティーセンター (泉州地域)
1月は未定	ファインプラザ大阪(泉北NT地域)

*開催時間内であればいつ来ても、帰ってもOK
*組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
*お茶代100円(大人のみ)をいただきます

編集後記

本紙の編集担当になってかれこれ3年になります。社会問題や生協活動をテーマにする記事が多く、知識や経験が乏しく毎号資料をひっくり返して勉強しながら原稿チェックをするなど、毎月頭を悩ませながらの日々でした。そんな編集担当としての役割も今号が最後となります。たくさんの方のことを学ばせていただきました。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co バックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基礎づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

今回は中期計画の実行方針である「地域拠点をつくります」という方針の中にある、複合施設の中での新たな福祉事業の展開を検討することへの取り組みとして、エスコープ大阪の福祉・介護事業をおこなう「エスコープ大阪サポートセンター(以下、SOS)」の全体研修についてお伝えします。



総勢101名のスタッフが集まり、知識や情報を共有しました。

今回は「高次脳機能障害」と「感染症」について学びました。最近では、病気や事故などによって脳の機能に障害が起こる高次脳機能障害と診断される人が増えています。高次脳機能障害の方への支援は専門性が問われ、日々知識の習得が必要となります。グ

スタッフの皆さんが研修で積

極的に情報を得ようとしている姿、グループワークで自信たっぷりに話す姿を見てみると、「さすがプロ」と頼もしさを感じました。ぜひ、この研修で得たことを現場で活かしてもらいたいと思います。(福祉担当常務理事 吉田正美)

おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

202号4面「食の自給を目指して「はりま」を食べすすめよう」を読んで

紙面モニター Aさん

国産鶏種「はりま」が国内で再生産できるとも貴重な鶏ということがよくわかった。はじめは育成率が安定せず大変苦労されながらも、生産者さんの熱い思いがあり今もおいしい鶏を食べることができてありがたいと思います。これからたくさん利用していきたいです。

202号2面「エコロ制度が変わります」を読んで

紙面モニター Bさん

エコロ制度が変わるタイミングで地域の学習会に参加しました。ご近所との関係が希薄になっている今こそ必要な制度だと思います。この制度を利用して、子どもたちの子育てに地域の人々が参加できるような機会を作れば良いのではないかと思います。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
204号(2019.12.9)

